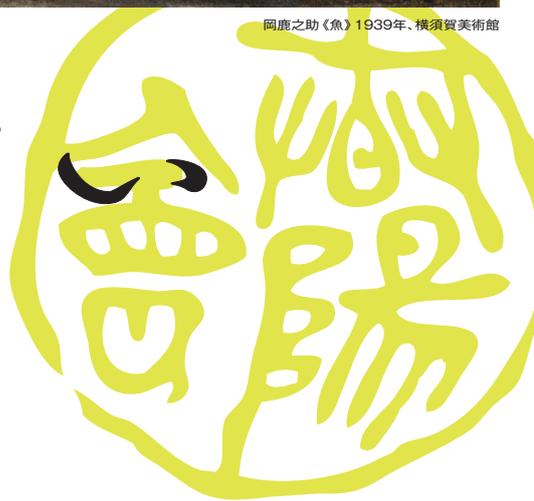




岡鹿之助《魚》1939年、横須賀美術館

春陽会誕生100年 それぞれの闘

岸田劉生、
中川一政から
岡鹿之助へ



東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



Artists of Shunyo-kai
Celebrating Its 100th Anniversary

開館時間=10時~18時(金曜日~20時) ※入館は閉館30分前まで
休館日=月曜日(9月18日・10月9日・11月6日は開館)、9月19日[火]、10月10日[火]
主催=東京ステーションギャラリー [公益財団法人東日本鉄道文化財団]
共催=一般社団法人春陽会、日本経済新聞社 特別協力=東京国立近代美術館

2023.
9.16 sat.
11.12 sun.

会期中、展示替えをおこないます

画家のたぐいの自由な団体 夢の実現とそれぞれの表現

春陽会は一九二二年に帝国美術院、二科会に拮抗する第三の洋画団体として、すでに知名度のある画家たちにより組織された歴史ある美術団体です。春陽会を舞台に、日本近代美術史に登場するような画家たちが活躍してきました。春陽会の初期の展覧会には油彩だけでなく、版画、水墨画、素描、さらには新聞挿絵の原画などが自由に出品され、画家たちが作品を批評しながら芸術のために研鑽を積み、次世代育成をも念頭に基盤を固めていったのです。本展は、春陽会の創立から一九五〇年代頃までの展開を、一〇〇点以上の作品で辿ろうとするものです。

- 第1章 始動：第3の洋画団体誕生
- 第2章 展開：それぞれの日本、それぞれの道
- 第3章 独創：不穏のなかで
- 第4章 展望：巨星たちと新しなる流れ



01 春陽会で活躍した豪華な面々

その名を冠した美術館がある小杉放菴、三岸好太郎、裕伊之助。文化勲章を受章した梅原龍三郎、中川一政、岡鹿之助。フランス文化勲章を授与された長谷川潔、当館で回顧展を開催した岸田劉生、木村荘八、河野通勢ほか実力ある画家たちの傑作が集まります。

02 こびり内容、約50名の画家の作品、各地より

2020年度より研究者を交えた春陽会関係者と開催館学芸員約10名が毎月のように検討会議を開催して厳選した、春陽会の第1回展からの出品作を含む良質な作品が、約50カ所の所蔵先からやってきます。

03 春陽会の展覧会を彩った代表作が続々登場

梅原龍三郎《裸婦図》(第1回展)、岸田劉生《竹籠含椿》(第1回展)、萬鐵五郎《裸婦(ほお杖の人)》(第4回展)、木村荘八《パンの会》(第6回展)、小杉放菴《松下人》(第13回展)、倉田三郎《春陽会構図》(第15回展)、岡鹿之助《観測所》(第28回展)などが出品されます。



萬鐵五郎《羅布かづく人》
1925年、岩手県立美術館(第3回展出品)



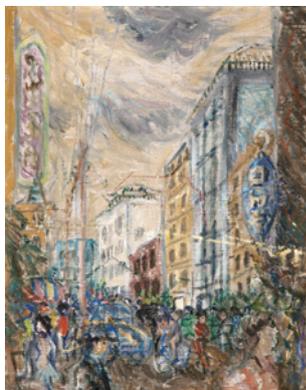
中川一政《向日葵》1982年、真鶴町立中川一政美術館



三岸好太郎《少年適化》
1929年、東京国立近代美術館(第7回展出品)



長谷川潔《アレキサンドル三世橋とフランス飛行船》
1930年、碧南市藤井達吉現代美術館(第9回展出品)



木村荘八《銀座みゆき通り》
1958年、東京ステーションギャラリー



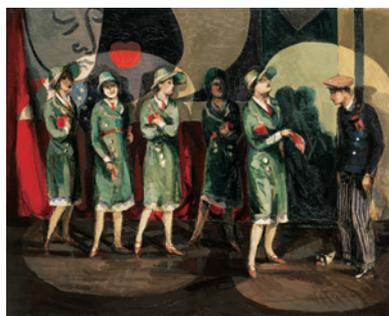
岸田劉生《箏子弾絃図》
1923年、京都国立近代美術館



権典雄《朝子像》1927年、平塚市美術館
(第5回展出品)



小杉放菴《双馬図》1925年、小杉放菴記念日光美術館



木村荘八《私のラバさん》1934年、愛知県美術館
(第12回展出品)



前田藤四郎《紅型》1939年、大阪中之島美術館
(第17回展出品) [10/17から展示]

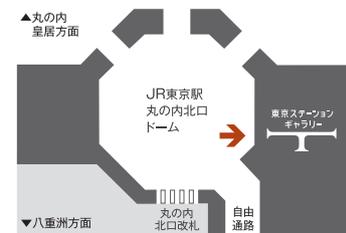
入館料＝一般1,300(1,100)円、高校・大学生1,100円(900)円、中学生以下無料
※()内は前売料金(8/1～9/15オンラインチケットで販売) ※障がい者手帳等持参の方100円引(介添者1名無料)
※チケット販売＝【前売券・当日券】オンラインチケット www.e-tix.jp/ejrcf_gallery/ 【当日券】当館1階入口

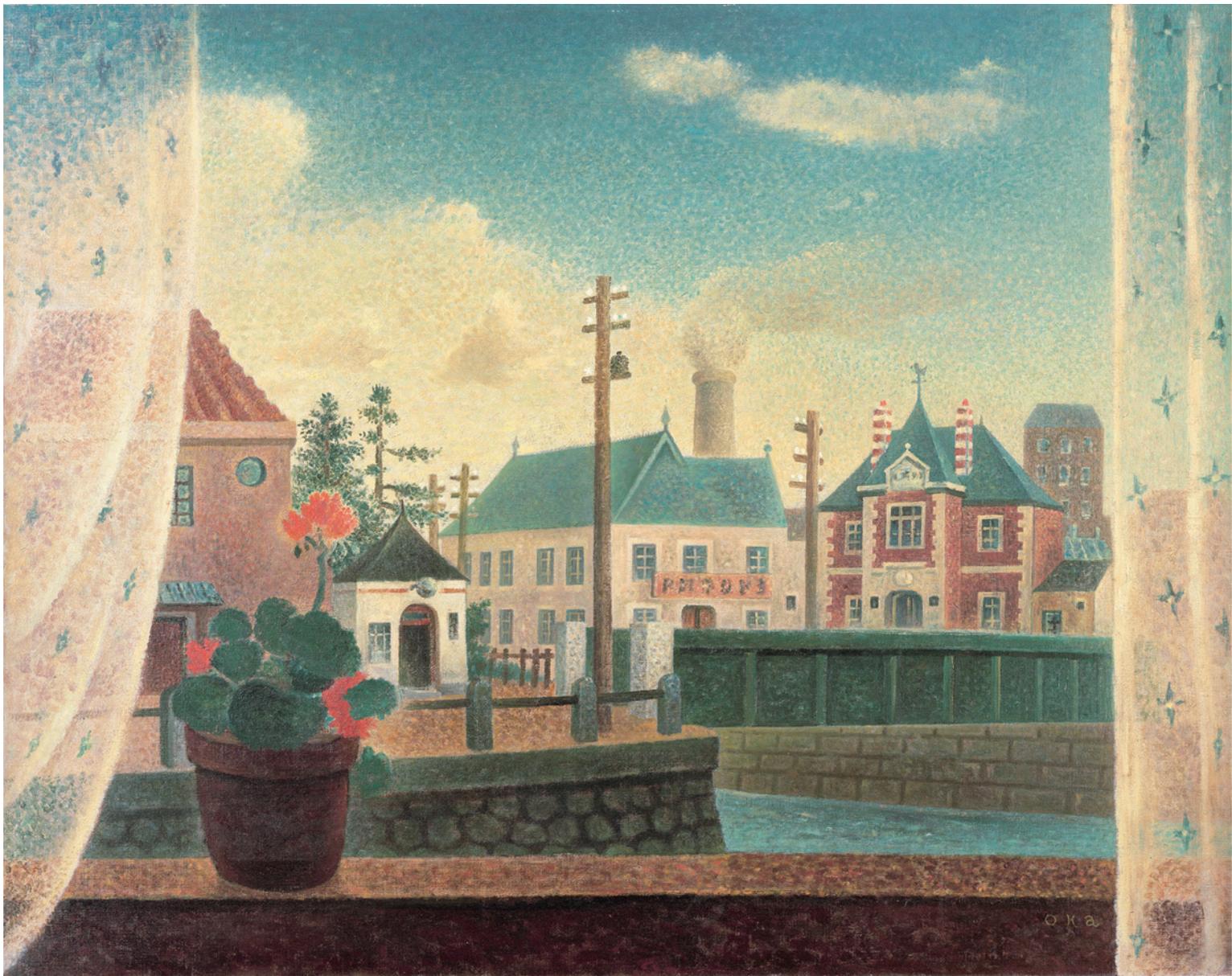
◎会期中、展示替えをおこないます。都合により開催内容が変更になる場合があります。
◎最新情報や関連イベント(8月に告知予定)は美術館ウェブサイトでご案内します。
◎春陽会主催のトークイベントや「春陽会第4世代の作家たち」展については春陽会ウェブサイト(<https://shunyo-kai.or.jp/>)でご確認ください。

【次回展】みちのくいとしい私たち 2023.12.2[土]→2024.2.12[月祝]

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

東京都千代田区丸の内1-9-1(JR東京駅丸の内北口改札前)
電話＝03-3212-2485 <https://www.ejrcf.or.jp/gallery/>





岡鹿之助《窓》1949年、愛知県美術館（第26回展出品）

春陽会誕生100年 それぞれの闘

岸田劉生、
中川一政から
岡鹿之助へ



東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

Artists of Shunyo-kai
Celebrating Its 100th Anniversary

開館時間=10時~18時(金曜日~20時) ※入館は閉館30分前まで
休館日=月曜日(9月18日・10月9日・11月6日は開館)、9月19日[火]、10月10日[火]
主催=東京ステーションギャラリー [公益財団法人東日本鉄道文化財団]
共催=一般社団法人春陽会、日本経済新聞社 特別協力=東京国立近代美術館

2023.
9.16 sat.
11.12 sun.

会期中、展示替えをおこないます

画家のための自由な団体 夢の実現とそれぞれの表現

春陽会は一九二二年に帝国美術院、二科会に拮抗する第三の洋画団体として、すでに知名度のある画家たちにより組織された歴史ある美術団体です。春陽会を舞台に、日本近代美術史に登場するような画家たちが活躍してきました。春陽会の初期の展覧会には油彩だけでなく、版画、水墨画、素描、さらには新聞挿絵の原画などが自由に出品され、画家たちが作品を批評しながら芸術のために研鑽を積み、次世代育成をも念頭に基盤を固めていったのです。本展は、春陽会の創立から一九五〇年代頃までの展開を、一〇〇点以上の作品で辿ろうとするものです。

- 第1章 始動：第3の洋画団体誕生
- 第2章 展開：それぞれの日本、それぞれの道
- 第3章 独創：不穏のなかで
- 第4章 展望：巨星たちと新たなる流れ

01 春陽会で活躍した豪華な面々

その名を冠した美術館がある小杉放菴、三岸好太郎、裕伊之助。文化勲章を受章した梅原龍三郎、中川一政、岡鹿之助。フランス文化勲章を授与された長谷川潔、当館で回顧展を開催した岸田劉生、木村荘八、河野通勢ほか実力ある画家たちの傑作が集まります。

02 こびり内容、約50名の画家の作品、各地より

2020年度より研究者を交えた春陽会関係者と開催館学芸員約10名が毎月のように検討会議を開催して厳選した、春陽会の第1回展からの出品作を含む良質な作品が、約50カ所の所蔵先からやってきます。

03 春陽会の展覧会を彩った代表作が続々登場

梅原龍三郎《裸婦図》(第1回展)、岸田劉生《竹籠含椿》(第1回展)、萬鐵五郎《裸婦(ほお杖の人)》(第4回展)、木村荘八《パンの会》(第6回展)、小杉放菴《松下人》(第13回展)、倉田三郎《春陽会構図》(第15回展)、岡鹿之助《観測所》(第28回展)などが出品されます。



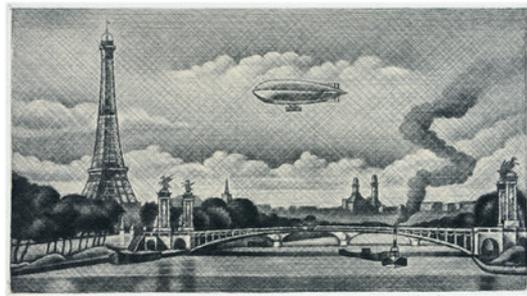
萬鐵五郎《裸婦の図》1924年頃、平塚市美術館(第3回展出品)



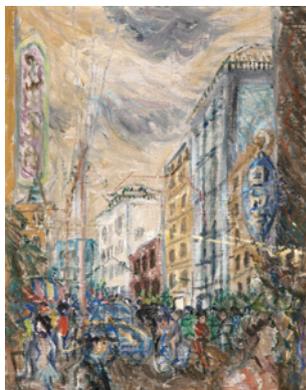
中川一政《向日葵》1982年、真鶴町立中川一政美術館



三岸好太郎《少年適化》1929年、東京国立近代美術館(第7回展出品)



長谷川潔《アレキサンドル三世橋とフランス飛行船》1930年、碧南市藤井達吉現代美術館(第9回展出品)



木村荘八《銀座みゆき通り》1958年、東京ステーションギャラリー



岸田劉生《粽子弾絃図》1923年、京都国立近代美術館



椿典雄《朝子像》1927年、平塚市美術館(第5回展出品)



小杉放菴《双馬図》1925年、小杉放菴記念日光美術館



木村荘八《私のラバさん》1934年、愛知県美術館(第12回展出品)



前田藤四郎《紅型》1939年、大阪中之島美術館(第17回展出品) [10/17から展示]

入館料＝一般1,300(1,100)円、高校・大学生1,100円(900)円、中学生以下無料
※()内は前売料金(8/1～9/15オンラインチケットで販売) ※障がい者手帳等持参の方100円引(介添者1名無料)
※チケット販売＝【前売券・当日券】オンラインチケット www.e-tix.jp/ejrcf_gallery/ 【当日券】当館1階入口

◎会期中、展示替えをおこないます。都合により開催内容が変更になる場合があります。
◎最新情報や関連イベント(8月に告知予定)は美術館ウェブサイトでご案内します。
◎春陽会主催のトークイベントや「春陽会第4世代の作家たち」展については春陽会ウェブサイト(<https://shunyo-kai.or.jp/>)でご確認ください。

【次回展】みちのくいとしい私たち 2023.12.2[土]→2024.2.12[月祝]



東京都千代田区丸の内1-9-1(JR東京駅丸の内北口改札前)
電話＝03-3212-2485 <https://www.ejrcf.or.jp/gallery/>

